

## タイの初期設定と調整

A musical score in 3/4 time, key of D major. It features a melody with several slurs and ties. Fingerings are indicated with numbers 1-4. Dynamics include *ff*, *f*, and *sf*. There are also some slurs over chords. The score is presented in three staves: two treble clefs and one bass clef.

上のサンプルは私の直近の編曲譜ですが、良く似た曲線と描かれるスラーとタイの違いに関する考察が今回のテーマです。それぞれの始点と終点の水平位置の微妙な違いが、特に第1五線と第2五線で視認しやすいと思います。スラーの方は符頭を中心まで延ばされているのに対して、タイの方はそれより手前の方で止まっています。太さや曲率も違って、この両者を視覚的にも峻別しようとするのが、その目的です。

これが正しいかどうかを私は断言できません。いろいろと御教示いただいた熟練浄書家の先生の御意見は、スラーもタイも図形としては同じであるべきだというものでした。対して私の最初の Finale の先生はクラリネット奏者でもあり、その両者は区別されるべきだと主張されていました。私の専門のギターでは同音に付くスラーは原則として存在しませんが、それでも、これらは違っていた方が良いでしょうと思います。

右は Kousaku デフォルトファイルのタイ初期設定ですが、上例の楽譜に関わる要素の一つが、「上向き/和音の外側/符頭側」での「横」の始点と終点です。2 という絶対値は実に控えめで、単音、そして和音でも外声側なら、ほんの少しだけ符頭を中心を外そうとするものです。ここの設定は実に手が込んでいて、内声に付く場合等にも配慮した数値が与えられていますが、それは必ずしもスラーとの違いを鮮明にしようというものではありません。私はここの絶対値を7にしていますが、これによりタイの姿に独自性を持たせることが出来ます。ただし、それでも以後の手動調整が不可避となりがちなもので、ただその作業負担が軽減されるだけです。

The screenshot shows the 'File-specific Options - Ties' dialog box. It has several sections:
 

- タイの配置設定**: Includes a dropdown for '上向き/和音の外側/符頭側', and input fields for '横' (2) and '縦' (6).
- 改行されるタイ**: Includes input fields for '段頭のタイの始点' (0), '段末のタイの終点' (0), and '段頭のタイのスペース' (0).
- タイの方向**: Includes a dropdown for '和音の内側' (第3線で分ける) and a checked box for '2度は反対向きにする'.
- 向き異なる符尾同士**: A dropdown set to '上向き'.
- 記号による分断**: Includes checked boxes for '拍子記号' and '調号', with input fields for '左' and '右' (both 12).

Two musical score examples, A and B, in 2/4 time, key of D major. Both start with a 'grazioso' marking and a 'C.IV' chord. Example A shows ties that are manually adjusted to be wider and more horizontal. Example B shows ties that are narrower and more vertical, reflecting the default settings. Both examples include fingerings and dynamics like *sf*.

上の譜例の A は全てのタイに工具箱ツールで手動調整を施したもので、B は自分の初期設定そのままにしたものですが、その違いは一目瞭然かと思えます。こういった短いタイの場合は始点と終点を延ばさないと姿を維持できません。そして、これに適した初期設定にすると、今度は普通か長めのタイが変になります。また、B の場合は二つのタイが共に上向きになっていますが、これはレイヤー設定が効いているからです。浄書原則上では上声部のスラーやタイは上向きとされるので、それは

正しいのですが、本例の場合は原則破りの「向かい合わせタイ」の方が良いと考えます。Finale で最も自動化しにくいアイテムの一つがタイです。それはオペレータの技量と誠意を厳しく問うものだと私は思います。もともと、ここで最重要の要因は音符間の距離ですので、そう遠くない将来にプログラムが改良されるか、または新しいプラグインが登場してくるかもしれません。